

平成 26 年度事業計画

目 次

1	概要	61
2	会議・会合	63
3	粉体工業展	63
4	常置委員会	64
5	規格・標準化委員会	67
6	臨時委員会	69
7	分科会	70
8	粉体工業技術センター	74
9	技術情報交流懇話会	75
10	共催・協賛及び後援行事	75
11	刊行物	76

第3章 平成 26 年度事業計画

(平成 26 年 3 月 19 日理事会承認)

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

1. 概要

平成 26 年に入り、輸出環境の改善やそれに伴う企業経営マインドの好転が鮮明になり、経済の先行きにも透明感が増してきています。消費税率引き上げによる影響、金融資本市場の動向、アジアの新興国等の経済動向、電力供給の制約等、景気下振れ要因となる多くのリスクを抱えてはいますが、デフレ脱却・経済再生に向け、着実な各種経済施策の進展による成果に期待が寄せられています。

我が協会は、粉体がかかわる鉱工業技術の開発及び普及を通じて粉体関連工業の発展を図り、もって我が国経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とし、一般社団法人として、社会から求められる使命と役割を積極的に果たしていかなければなりません。そのためにも、基本を大切にしつつも、新しい考えや技術を取り入れ、未来へ、そして次の世代へと引き継いでいける協会づくりを目指したいと考えます。

公益目的事業(継続事業)活動の柱である分科会活動を中心とする**調査・研究事業**、月刊情報誌「粉体技術」の発行等による**広報・普及事業**、教育部門を中心とする**人材育成・教育事業**、JIS、ISO 等の**規格・標準化事業**、及び**海外交流事業**等、これまでの事業を引き続き強力に推進します。

また、これら公益目的事業を支える**展示会事業**、**標準粉体製造頒布事業**に加え、**会員共益事業**の積極的展開を図り、粉体工業技術があらゆる産業の基盤技術であり、先端技術への入口に位置することを深く認識し、協会内外から「魅力ある」と評価される事業活動の展開に取り組んでまいります。会員各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。

今年度は、「ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動」、「基本技術の継承と発展」、「国際粉体工業展東京2014の目標達成」及び「ナノ物質への対応・検討」を活動の重点目標に掲げたいと思います。

1) 公益目的事業(継続事業)の活動計画概要

1. 1) 調査・研究事業

19 の分科会は、夫々に掲げた中期的テーマ(3 年程度)に基づき、平成 26 年度(単年度)活動を展開します。また、協会の重点目標である「ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動」を受けて、実設計に役立つ定量化可能なデータの提供、ユーザー・オリエンティッドを活動の柱とします。これに基づき、微粒子ナノテクノロジー分科会を中心として関連分科会が協力し、ナノ物質に関連する技術テーマを抽出し、今後の重要技術の探求や研究開発活動を推進します。

技術委員会傘下の「技術用語検討委員会」では、冊子「粉体技術用語集(仮題)」発刊を目指します。又、「ナノ物質検討委員会」では、「ナノ粒子安全性ハンドブック」に基づくチェックリストを充実させ、国際粉体工業展東京 2014 においてセミナーを開催します。

1. 2) 広報・普及事業

(1) シンポジウム・フォーラム等の開催

「粉体工業技術に関する調査研究の成果の提供」の一環として、当年度も積極的にあらゆる機会を通じ、粉体技術フォーラム、セミナーあるいはシンポジウムの開催に努めます。また、他の学協会との共催、後援及び協賛行事にも積極的に参加し、ホームページ、メールマガジン等及び月刊誌「粉体技術」を通じ、粉体工業技術の普及と啓発を推進します。

(2) 粉体技術交流・相談事業

国際粉体工業展東京2014では「技術相談コーナー」を開設し、技術相談に応じるほか、産学技術交流推進部門では、常時協会内外からの粉体技術相談に対応し、産学官や企業間の技術交流を推進し粉体業界活性化の役割を果たしてまいります。

1. 3) 人材育成・教育事業

教育部門を中心に、粉体技術者の継続的、専門的生涯教育及び人材育成の一貫として、当年度も以下の講座、セミナーを開催します。

・粉体入門セミナー(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)(粉体工学会企画)	3回
・粉体エンジニア早期養成講座(11講座)	11回
・粉体技術専門講座(分科会企画)	2回
・粉じん爆発・火災安全研修【初級】【中級】	各1回
・経営講座	1回
・特別講座(海外情報セミナー)	2回

1. 4) 規格・標準化事業

標準粉体委員会は、現在市販中の検定用 MBP 粒子の粒子径分布における不確かさの表示を行い、APPIE サブミクロン領域試験用粒子の再検討と適合性データの整備を行います。また、現在主力製品である試験用粉体1の品質管理法の改良や輸出対応粉体増強を目的として英文説明書の整備に注力します。

ISO 対応委員会・粒子特性評価小委員会(TC24/SC4)は、「ナノ物質等の計測評価に関する国際標準化に関する国際標準開発」事業を推進し、第46回(5月、中国)及び第47回(9月、英国)国際会議に参加します。ふるい小委員会(TC24/SC8)は、小委員会体制の再構築を図り、担当の国際規格化作業を推進します。集じん技術小委員会(TC142/WG7)は、提案している CD16891 の DIS 登録とステージアップを目指し、必要なデータ収集を行い、第10回国際会議(9月、英国)に参加し、その国際規格化を推進します。

粉じん爆発委員会は、JIS 原案作成委員会を設置し、協会規格「可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法」の原案を作成します。耐爆発圧力(衝撃)構造乾燥設備の国内製造に向けた対応として、技術指針・ガイドラインの制定を労働安全衛生研究所と共同作業で実施します。その他、粉じん爆発・火災安全研修【初級】【中級】及び粉じん爆発情報セミナー(国際粉体工業展東京2014併催セミナー)を開催します。

1. 5) 海外交流事業

今年度も10月のIPB2014(上海/中国)に協賛し、海外交流委員会が協会ブース及びJapanese Pavilionを開設します。また、PBS2014(シカゴ/米国)、PBSI2014(ムンバイ/インド)での二つの展示会等へ参加し、情報収集を行います。分科会等の海外活動を支援すると共に、国際粉体工業展東京2014ではアジアフォーラムを企画・運営いたします。

2) その他事業の活動計画概況

2. 1) 展示会事業

国際粉体工業展東京2014を、11月26日～28日、東京ビックサイト 東展示場 1・2・3ホールにて開催します。325社・団体、1,100小間の開催規模で目下出展募集中です。特別講演の他、各種セミナーやフォーラム、製品技術説明会、技術相談、学生交流会等多くの併催行事を計画しています。

2. 2) 標準粉体製造頒布事業

今年度GDPの伸びについて、政府、日銀等は1.5%前後を想定しています。予測しがたい状況ではありますが、標準粉体の売上げもこれに連動するとして今年度は94,000千円の売上げを目指します。また、製造委託業者と連携を図り、品質と供給体制の安定を図ると共に、標準粉体委員会とも連携して、検定用粒子をCertificated Reference Materialへ格上げすべく努めます。

2. 3) 会員共益事業

以下の活動を通じて、会員相互の親睦と技術情報交流、人脈形成、親睦等の促進を図ります。

- ・技術情報交流懇話会・・・火(4回)、水(3回)、木(4回)、金(3回)曜会、合計14回
- ・推薦審査委員会・・・例年通り、分科会功労賞、個人会員・会友の入会審査、協会賞、粉体工業展賞、粉体工業功績者表彰の審査・推薦を行います。
- ・人材育成委員会・・・引き続き年間4回の「若手のつどい」を開催します。又、国際粉体工業展東京2014開催に併せ、「学生ツアー・交流会」を企画・開催します。

2. 会議・会合

2.1 第33回定時総会

開催日時：平成26年5月27日(火) 13:00

場 所：東京/東京ガーデンパレス

次 第：*総会

*表彰式

協会賞授与、粉体工業展賞授与、粉体工業功績者表彰

*特別講演

*懇親会

2.2 理事会

開催日時	開催場所
第1回平成26年 5月8日(木) 15:00	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪
第2回平成26年 8月1日(金) 13:00	東京/東京ガーデンパレス
第3回平成26年 11月19日(水) 12:30	京都/京都センチュリーホテル
第4回平成27年 3月18日(水) 12:30	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

2.3 常務会

開催日時	開催場所
第1回 平成26年4月8日(火) 13:30	東京/東京ガーデンパレス
第2回 平成26年7月8日(火) 13:30	東京/東京ガーデンパレス
第3回 平成26年11月5日(水) 13:30	名古屋/名鉄ニューグランドホテル
第4回 平成27年3月5日(木) 13:30	大阪/ANAクラウンプラザホテル大阪

2.4 定例会合

開催日時	開催場所
秋期定例会合 平成26年11月19日(水) 15:00	京都/京都センチュリーホテル

2.5 分科会連絡会議および委員会・部門連絡会議

分科会連絡会議	平成27年1月23日(金) 13:00	名古屋/名鉄グランドホテル
委員会・部門連絡会議	平成27年1月24日(土) 9:30	名古屋/名鉄グランドホテル

3. 粉体工業展

3.1 国際粉体工業展東京2014の開催

来る11月26日(水)から28日(金)までの3日間、国際粉体工業展東京2014が開催される。粉体工業展は当協会にとっても、また粉体機器・技術に関する事業者の方々にとっても最大のイベントであり、あらゆる“粉”に関する情報を発信、且つ触れ合う最大の機会でもある。

東京ビッグサイトに会場を移して3回目の開催となるが、来場者アンケートでの要望にこたえて今回も開場時間を1時間延長して10:00から18:00(最終日28日は17:00まで)とし、さらに魅力的な展示会づくりを目指して準備を進めている。

◇開催概要

会 期：2014年11月26日(水)～28日(金) 10:00～18:00

会 場：東京ビッグサイト 東1・2・3ホールおよび会議棟

テーマ：この一粒・・・夢をかたちにー粉の技術ー

◇出展対象技術・製品

製造・プロセス機器ゾーン

粉碎装置／ふるい分け装置／分級装置／ろ過装置／混合装置／混練装置／造粒装置／コーティング装置
／コーティング装置／乾燥装置／供給装置／輸送装置／分散装置／集じん装置／成形装置／表面改質装置
／包装装置／焼成装置／他

計装・測定、ラボ機器ゾーン

計測機器／計装機器／ラボ機器／制御システム／FA装置／他

材料、エンジニアリング・情報ゾーン

新素材／フィルター材／スクリーン／機能性粉体／エンジニアリング／受託加工サービス／出版／コンピュータシステム／助剤／他

◇今回の特色

●特別講演

初日の11月26日(水)に「エネルギーのベストミックス」と題し、東京大学大学院工学系研究科教授藤井康正氏による特別講演を開催する。

●最新情報フォーラム

今回は最新情報フォーラムのテーマとして「ナノマテリアル」「二次電池」「3Dプリンター」「食の安全・安心」および「粉体シミュレーション」を採り上げ、それぞれ著名な講師による講演会を開催し、また展示会場内に特設展示ゾーンとして「ナノマテリアルゾーン」「二次電池展示ゾーン」を設置して関連展示を行う。

●国際フォーラム

国際フォーラムとして、「多国間協定の Outline と知財」および「海外情報：インドネシア」をテーマに、それぞれの講演会を企画している。

●粉じん爆発情報セミナー

粉じん爆発の危険性評価、予防など最新の情報をテーマにしたセミナーを開催

●ナノ物質の安全な取扱いに関するセミナー

ナノ粒子を安全に取扱う方法を主テーマにしたセミナーを開催

●製品技術説明会のテーマ枠は最大 63

製品技術説明会の会場は、3 会場で最大 63 テーマを募集、発表会場も展示会場内に設置する。

●特別展示(粉の広場)

アカデミックコーナー、テーマパネル展示コーナー、分科会展示コーナー、標準粉体展示コーナー、技術相談コーナーをはじめ、多彩なイベントを企画している。

◇同時開催

●粉体工学会秋期研究発表会

4. 常置委員会

4.1 総務委員会 (赤堀肇紀委員長、杉田稔副委員長、棚橋純一副委員長)

委員会開催予定:4回

活性化小委員会を開催し、短中期テーマに取り組む。

活動:

1)主務事項の推進

- ① 2014/2015年版「事業案内」(和・英)の改訂・発行
- ② 「粉体技術」編集委員会合宿への参画。議論に参加し、広報の立場で提言を継続。
- ③ 協会ホームページ(和・英)の全面改訂と会員の利便性向上の為検索機能強化に向け事務局支援。
- ④ APPIE メールマガジンの発信
- ⑤ 会員増強の取組み(活性化小委員会活動等)
 - ・ 粉体工業展東京 2014 での非会員出展企業への勧誘活動:計画立案と実施。
 - ・ 分科会・人材教育セミナー等への非会員企業リスト作成:本部等関係部署と協議し会員増強に生かす。
 - ・ 新入会員5分間プレゼン:定着化に向けて活動。
 - ・ 新入会員オリエンテーション:訪問型での実施に向けて事務局と連携する。
- ⑥ 広報活動
 - ・ 海外情報セミナーの企画:第2回(テーマ中国)、第3回も実施予定。
 - ・ FOOMA JAPAN2014 の協会ブース(バーター)において入会 PR 活動実施。

2)会長特命事項への逐次対応

4.2 技術委員会(増田弘昭委員長)

- 1)引き続き「技術用語検討委員会」及び「ナノ物質検討委員会」に参画。
- 2)粉体工学会の「粉体技術セッション」の発展に積極的協力。

4.2.1 技術用語検討委員会(増田弘昭委員長、牧野尚夫副委員長)

委員会を2回実施予定。

- 1) “粉体技術基礎”は、引続き山田委員作成、H26年8月号で掲載完了の予定。
- 2)「粉体技術用語集(仮題)」の1次原稿完成(H27年度早期に発刊を目指す)。

4.2.2 ナノ物質問題検討委員会(明星敏彦委員長、遠藤茂寿副委員長、近藤郁副委員長)

会合開催は、2回程度(場所は協会の京都または東京事務所)を予定したい。

- 1)ナノ粒子安全性ハンドブックに基づくチェックリストの作成
ハンドブックに記述してあることを自主的に確認する方法を提示する。
前回の著者を中心に何を調べれば安全の条件を満たすか項目を検討する。
(局所排気装置の定期自主検査指針などを参考にする。)
- 2)集じん装置のナノ粒子分離性能
HEPAフィルタ以外の集じん装置のナノ粒子の分離能力を検討する。
- 3)粉工展東京2014のセミナー企画
ナノ粒子安全性ハンドブックに基づくチェックリストを示すことで新しさを出す。

4.3 「粉体技術」編集委員会(大矢仁史委員長、鈴木道隆副委員長、谷正美副委員長)

委員会開催予定: 4回

小委員会開催予定:12回(毎号印刷前、於:京都・協会本部)

活動:

- 1) 協会月刊誌として、協会活動の公報的な役割と粉体分野の技術動向などの情報発信についてのバランスのとれた紙面作りを心がけていく。
- 2) 毎年4月号に掲載している「協会を支える分科会活動」の掲載方法についてアンケートを実施し、分科会活動の紹介について活動報告・計画、ロードマップ、幹事会員の記載方法の変更を決め、分科会連絡会議において要望した。
- 3) 平成26年12月号までの特集記事の予定は下記の通りである(仮題)。
4月号 協会を支える分科会活動
5月号 農薬製剤と散布技術
6月号 実プロセスへのシミュレーションの適用
7月号 薬物の安全・産業衛生
8月号 エネルギー特集号
9月号 造粒
10月号 乾燥
11月号 ものづくりを3D化
12月号 新産業・新技術を創出する国際戦略特区

4.4 推薦審査委員会(増田弘昭委員長、加藤文雄副委員長)

委員会開催予定: 3回(10月、1月、3月、いずれも協会本部)

活動:

- 1) 分科会功労賞の推薦審査
- 2) 個人会員・会友・名誉個人会員の推薦審査、現個人会員の見直し及び会長答申
- 3) 協会賞(功労賞、技術賞)、粉体工業展賞、粉体工業功績者の推薦審査

4.5 粉体工業展委員会(大川原武委員長、谷本友秀副委員長、菅原一博副委員長)

委員会開催予定: 1回は開催する(大阪/東京粉体工業展委員会の本委員会に併せ開催予定)。

・必要事項が発生すれば、その都度開催する。

活動:

「粉工展大阪 2013」の反省などをふまえ、「国際粉体工業東京 2014」を支援・助言していく。

4.5.1 東京粉体工業展委員会（谷本友秀委員長、大川原正明副委員長、村田博副委員長）

H25 年度に策定した国際粉体工業展東京 2014 の企画内容についてさらに詳細計画を詰めると共に、出展および来場促進活動に注力し前記開催規模目標を達成する。

委員会開催予定：5 回（4, 6, 8, 10, 12 月）場所は協会東京事務所

小委員会開催予定：場所は東京事務所

出展・来場促進小委員会（4, 6, 8 月）出展・来場対策

広報小委員会（6, 8, 10 月）来場促進のための広報活動

会場構成（小間割）委員会（9 月）会場レイアウト、小間割調整検討

会場運営実行小委員会（10 月）業務内容、業務分担

4.5.2 大阪粉体工業展委員会（菅原一博委員長、加藤文雄副委員長）

委員会開催予定：3～4 回 場所はメルパルク京都ほか

小委員会開催予定：必要があれば出展促進委員会を開催する予定

活動：第 10 回の反省を踏まえ、次回“粉体工業展大阪2015”の開催（インテックス大阪、2015 年 10 月 14 日（水）～16 日（金））に向けての準備。国際粉体工業展東京2014でチラシを配布し PR、その他展示会でも PR を実施

主たる課題

- ① 場規模拡大 1, 2 号館→4, 5 号館のため、出展促進の強化に注力
- ② 併催行事の数とスケジュールの検討
- ③ 同時開催行事との調整
- ④ 運営面での改善
- ⑤ その他

4.6 分科会運営委員会（杉田稔委員長、伊ヶ崎文和副委員長）

委員会開催予定：4 回（6,8,11,3 月 京都、名古屋）

活動：

- 1) 「ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動」を中心に分科会活動の活性化に向けての分科会活動への助言や方向付けを行って行きたい。
- 2) 例年と同様の委員会・拡大委員会を開催し、分科会活動の問題点などを共有化し解決の方策を探って行きたい。
- 3) 「協会としてのナノ物質に関連する技術テーマの抽出し、今後の取り組み方の骨子作り」を推進して行く。

4.7 海外交流委員会（辻裕委員長、松本幹治副委員長、赤堀肇副委員長）

委員会開催予定：2 回（7 月、3 月：東京）

小委員会開催予定：企画小委員会：1 回（H27 年度の基本方針の策定 平成 26 年 12 月）

アジアフォーラム小委員会：第 3 - 5 回、アジアフォーラムの企画、運営法

活動：

- 1) 次の海外展示会への参加・情報収集
 1. International Powder & Bulk Solids シカゴ粉体工業展（参加）
2014.05.06(火)-08(木) 米国・ローズモント
 2. POWTECH 2014.09.30(火)-10.02(木) ドイツ・ニュルンベルク
 3. IPB2014 & Japanese Pavilion 2014.10.14(火)-16(木) 中国・上海（参加）
 4. ChemTECH WORLD EXPO 2015.01.28(水)- 31(土) インド・ムンバイ
 5. POWDER & BULK SOLIDS INDIA 2014 2015.02.18(水)-20(金) インド・ムンバイ（参加）
- 2) 協会情報の海外への発信：APPIE Annual Report 等
- 3) 国際粉体工業展東京 2014 でのアジアフォーラムを企画・運営
- 4) 分科会などの海外活動支援
- 5) 各種、海外からの協力要請、問い合わせ対応

4.8 人材育成委員会（大川原正明委員長、西村卓朗副委員長）

委員会開催予定：4回（6月－京都又は名古屋、8月～9月－関西、10月－東京、3月－東京）

小委員会開催予定：必要に応じて開催する。

活動：

- 1) 「若手のつどい」を年4回開催する。
- 2) 平成26年11月国際粉体工業展東京2014「学生ツアー・交流会」の企画運営等の支援を行う。
- 3) 雇用延長に伴う諸制度の勉強会についての検討

4.9 標準粉体委員会（森康維委員長、後藤邦彰副委員長）

委員会開催予定：2回（10月、2月 於：協会本部）

小委員会開催予定：適宜

活動：

- 1) JIS粒子径測定装置検定用粒子のMBP粒子3種類の粒子径分布における不確かさデータの協会ホームページへの掲載
- 2) 製造中止となったJIS試験用粉体1用の粒子径分布測定装置（沈降天びん）に代わる改良型沈降天秤による同粉体の測定及と結果評価
- 3) APPIEサブミクロン領域粒子径分布測定装置試験用粒子（SAP 13-11に規定）の再調製及び粒子径分布の再測定と不確かさの範囲の確定と公表
- 4) 協会が販売する粒子の英文資料の整備

5. 規格・標準化委員会

5. 規格・標準化委員会

5.1 規格委員会（遠藤茂寿委員長）

委員会開催予定：2回（6月、下期：東京）

小委員会開催予定：なし

活動：

- 1) JIS原案作成及び見直し、ISOのJIS化検討・原案作成申請
 - ・SAP 12-10（最小着火エネルギー、土橋委員長）、SAP 15-13（一面剪断試験、鈴木委員長）のJIS原案作成、及びJIS Z 8823-2（液相沈降-光透過遠心沈降法、吉田委員長）の改正
 - ・ISO 26824（粒子特性評価用語）、ISO 13099-2（ゼータ電位-光学法）のJIS原案作成申請
- 2) 協会規格原案作成及び見直し
- 3) 規格化、標準化事業の成果の普及・広報

5.2 ISO対応委員会（遠藤茂寿委員長、吉田英人副委員長）

委員会開催予定：なし

小委員会開催予定：

粒子特性評価小委員会：2回（7、1月-東京）

- ・7月-東京・第46回国際会議の報告と第47回国際会議への対応
- ・1月-第47回国際会議の報告とその後の対応

ふるい小委員会：2回-（時期未定）

- ・ISOへの対応
- ・新規事業の検討

集じん技術小委員会：3回（4～5、7～9、10～11月）

- ・4～5月 本年度の方針の協議、連続式実験、国際連携について
- ・7～9月 DIS投票結果への対応、ISO/TC142総会（9月）への準備
- ・10～11月 ISO・TC142総会 報告及び今後の取り組み

5.2.1 粒子特性小委員会（桜井博小委員長）

- 1) ISO/TC 24/SC 4国際会議へ日本代表団として出席し、国際規格作成に参画する。
 - ・第46回国際会議（中国・北京、平成26年5月23～24日）
 - ・第47回国際会議（イギリス・マンチェスター、平成26年9月18～19日）

- 2) IS 定期見直しおよび ISO 規格案に対し、国内 WG を中心に審議し、投票する。
- 3) レーザ回折法、沈降法、粒子標準物質など、新規国際規格案の提案を行う。
- 4) 平成 27 年からの SC 国際幹事担当に向けた準備を行う。

5.2.2 ふるい小委員会(松山達小委員長)

- 1) ふるい小委員会の再構築を図る。
- 2) ISO/TC24/SC8 に関係する ISO 規格の改正、見直しの回答書を作成する。
- 3) ふるい関係業界の規格作成要望を調査し検討する。

5.2.3 集じん技術小委員会(金岡千嘉男小委員長)

- 1) TC142/WG7 で推進している ISO16891 Test methods for evaluating degradation characterization of cleanable filter media の DIS 投票を 3 月から実施、承認後、9 月英国開催予定 TC142 総会で FDIS への移行を日本主導で推進していく。
- 2) これとの関連で、連続通気式暴露法の追加試験の実施
- 3) TC142/WG5 は、新コンベナーの下で、フィルターシステムについて論議の予定

5.3 粉じん爆発委員会(土橋律委員長、林浩司副委員長、山隈瑞樹副委員長)

委員会開催予定:3 回(6 月:場所未定、12 月、3 月:東京)

委員会と同時に事例勉強会を開催。その他 WG・会合等適宜編成実施し、機動的・適時に活動を行う事を目指す。

活動:

- 1) 教育部門「粉じん爆発・火災安全研修」の企画・運営
 - ・ 粉じん爆発・火災 安全研修【初級】(毎年 秋期に関東・関西にて交互に開催)
平成 26 年 9 月 18-19 日に同志社大学京田辺キャンパスにて開催、募集定員 90 名。
実施の度に、アンケート等からは是正点等を検討し、より有効・有用な安全研修を目指している。
 - ・ 粉じん爆発・火災 安全研修【中級】(隔年 春期に関東にて開催)
平成 27 年 3 月 12-13 日に独立行政法人 労働安全衛生総合研究所にて開催予定。
- 2) 協会規格「可燃性粉じん・空気混合気の最小着火エネルギー測定方法」の JIS 化
JIS 原案作成臨時委員会設置(活動期間 H26/4~H27/3)が開始される見込み。委員の人選および標準試料の選定など準備のうえ、原案作成をおこなう。
粉じん爆発特性で、最も重要な特性の一つであり、注力する。
- 3) 耐爆発圧力(衝撃)構造乾燥設備対応検討
ドイツ VDI 指針の輸入品および欧州規格 EN 1127-1 準拠の輸入設置申請に関してサポートし輸入・設置使用許可が下りた(2012 年 6 月および 2013 年 2 月)。
今後は、国内製造に向けた対応として、技術指針・ガイドラインの制定が望ましい。H26 年度から制定作業を安衛研にて開始する方針を厚労省が決めた。本委員会も制定を共同実施する。
- 4) 粉体工業展東京 2014「粉じん爆発情報セミナー」
企画・開催 11 月 28 日 13:30~16:30 有料開催予定 ¥3,000/¥5,000
粉じん爆発に関する先端情報の発信・周知を目的とし、計画、準備をおこなう。
- 5) IEC/TC31 国内委員会への対応
本委員会より山隈副委員長と榎本委員(オブザーバー)が参加している。
防爆機器関係の IEC 規格再編も進んできており、粉じん爆発に関してもこの枠の中に組み込まれるようになってきた。
- 6) 粉じん防爆構造規格の IEC 規格への整合化
厚労省が IEC/TC31(非)電気機器防爆関係規格の国内導入に向け、安衛研策定の指針を改定する委員会を開催している。H25 年度中に指針改定を終わる予定であり、場合によっては現在の製造設備の大幅な改修を要する重大な案件となる可能性があるため、対応の主体は協会としていただいた。粉じん爆発委員会としては、情報提供等サポートをおこなう。
- 7) 分科会等との連携
粉砕分科会と『粉砕操作と粉じん爆発対策強化に関する講演会(仮題)』を共同開催予定。
集じん分科会と合同勉強会を開催予定。

6. 臨時委員会

6.1 JIS 原案作成委員会(1) (土橋律委員長)

委員会開催予定： 4回(5、7、11、1月 協会東京事務所)

分科会開催予定： 2回 (6、10月 協会東京事務所)

活動：

平成22年3月18日制定の協会規格 SAP12-10 や IEC61241-2-3 に対応する JIS 原案を作成する。

化学工場、製薬工場、電子機器製造工場、粉体製造工場等の生産現場、あるいは産業廃棄物処理場では多種多様の粉体が製造、使用又は廃棄されているが、これらの粉じんが浮遊して空気と混合すると、何らかの着火源(電気的火花、静電気、機械的摩擦熱など)によって粉じん爆発を生じることがある。その被害は、しばしば工場等の施設・設備の損壊のみならず、作業員・周辺住民の死亡・負傷等の重大なものとなる。また、最近では基幹原料の生産設備が破壊されてサプライチェーンが切断されることによって、関連企業のみならず産業全体で深刻な事態を引き起こした例もある。このような粉じん爆発を防止するためには、先ず使用される粉体の危険性を把握する必要があり、そのため爆発下限界、最小着火エネルギーなどの測定を行うが、最小着火エネルギーの測定方法には JIS がなく、国際規格 IEC 61241-2-3、団体規格(日本粉体工業技術協会規格 SAP12-10)、または事業者の独自の方法に従って測定されているためそれぞれの数値の齟齬が問題となっている。このような事情から、本件 JIS の早期の制定が試験機関、使用者双方から求められている。

本件 JIS が制定されれば、粉じん最小着火エネルギーの測定を規定された方法で行うことができるのでデータの信頼性が向上し、粉じん爆発防止対策が的確で、より効果的になされることとなり、より安全な操業が可能となると期待される。

6.2 JIS 原案作成委員会(2) (鈴木道隆委員長)

委員会開催予定： 3回(5、9、1月 協会東京事務所)

分科会開催予定： 1回 (7月 協会東京事務所)

活動：

平成25年3月19日に制定された協会規格 SAP15-13:2013 に対応する JIS 原案を作成する。

化粧品、医薬品、粉末冶金などの分野では、粉体を取扱うにあたり、流動性、圧密性、成形性は特に重要な特性である。また、粉体装置の設計においては、せん断特性、内部摩擦角、CSL や PYL を評価することが必須となっている。現在の評価規格として、建築分野での ASTM 及び ISO、医薬品分野では日本薬局方がある。しかしこれらの規格では、測定に際し数 kg の試料が必要で、薬剤粉末のような高価な粉体には適用しにくい。すなわち現行の規格では、数10gあるいは数10cc以下の粉体の垂直応力と剪断応力との関係すなわちせん断特性を精度良く測定することが難しい。本規格を制定することで、化粧品や医薬品、粉末冶金などの分野における製品設計や粉体操作で大きな問題となる流動性、圧密性、成形性の評価パラメーターが明確化する。また、二次電池など既に激化している国際競争のカギを握る製品設計の規格(デジュール標準)を確保し、その結果、我が国の国際市場競争力の向上に資すると期待される。

6.3 JIS 原案作成委員会(3) (吉田英人委員長)

委員会開催予定： 2回(6、9月 協会東京事務所)

活動：

対応する ISO の改正に伴い、JIS Z 8823-2 を改正する。

当該 JIS は、光透過式遠心沈降法による粒子径測定の国際規格である ISO 13318-2:2001 を国内規格にしたものであり、光透過式遠心沈降法は測定原理に忠実な方法として、粒子径測定に非常に広く利用されている。更に最近では、ナノ粒子を対象にした測定法としても注目されている。このような背景から、ISO 13318-2 は新たな測定システムを取り入れた規格として2007年に改正された。この ISO に対応している JIS Z8823-2 を改正する必要がある。

この規格に適合した装置により微粒子の特性をより適正に評価することができ、産業活動の一層の効率化を図ることが出来ると期待される。

7. 分科会

7.1 粉体ハンドリング分科会

(松本幹治コーディネータ、松坂修二副コーディネータ、村上徹代表幹事、海老原裕之副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	5~6月	九州地区(合同)	工場見学、技術講演
第2回	8~9月	関西地区	工場見学、技術講演、懇親会
第3回	9~10月	東南アジア地区	企業視察、技術講演、懇親会
第4回	11~12月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会
第5回	2~3月	関東地区	技術講演、製品紹介、懇親会

幹事会開催予定: 4回 (上記本会合に併せて、または必要に応じて開催)

小委員会開催予定: 4回 (粉粒体ハンドリング技術編集小委員会/本会合に併せて開催)

活動:

- 1) マテリアルハンドリング機器を取り込んだ分科会を計画・開催する。
- 2) 「粉粒体ハンドリング技術」書籍編集小委員会を開催し編集を進める。必要に応じて海外調査を行う。
- 3) 東南アジアでの分科会開催を検討する。
- 4) 粉体エンジニア早期養成講座への講師派遣と会場提供を行う。
- 5) 粉体の機械的単位操作に関する参加型講演会への講演協力を行う。

7.2 粉砕分科会

(齋藤文良コーディネータ、大木達也副コーディネータ、三代秀久代表幹事、伊藤均/海老原尚副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	福岡・大分	最新の製陶技術紹介と伝統窯元訪問
第2回	8月	東京	粉砕操作と粉じん爆発対策強化

幹事会開催予定: 3回 (6月-大分、8月-東京、12月-東京)

小委員会開催予定: 2回 (H27.1月-京都、H27.3月-東京)

活動: 「粉砕技術とその高度化」をテーマに活動を継続していく。

- 1) 中長期事業計画に則した本会合ならびに幹事会・小委員会の開催。
- 2) 粉体エンジニア早期養成講座「粉砕」の実施。

7.3 分級ふるい分け分科会

(吉田英人コーディネータ、桜井博副コーディネータ、秋山聡代表幹事、谷川英昭副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	5月	群馬	食品粉体の分級・ふるい分け
第2回	9月	山梨	ふるい網の製造技術と応用
第3階	2月	静岡	リサイクルにおける分離技術

幹事会開催予定:

幹事会: 3回 (上記本会合に併せて開催)

活動:

分科会本会合を3回開催する予定である。分離装置に関連した工場および粉粒体製造工場の見学と講演会を実施し、粉体材料の粒子径調整技術の動向を調査する。また、ISO標準化の情報収集ならびに分級機・ふるい分け機の性能評価についての調査を行う。

7.4 乾燥分科会 (田門肇コーディネータ、大森隆夫副コーディネータ、諏訪聡代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	関東	講演・見学会
第2回	11月	東京	IDS2014から乾燥技術紹介

幹事会開催予定:

幹事会: 2回 (上記本会合に併せて開催)

活動:

第1回分科会: 火力発電所の見学・講演会を計画する。

第2回分科会: 乾燥関連の講演会を開催予定。IDS2014が8月24~27日にフランスで開催される。IDSに参加された先生に依頼し、海外での乾燥技術、装置関連の最新動向の講演会を開催する。

7.5 集じん分科会

(金岡千嘉男コーディネータ、牧野尚夫副コーディネータ、後夷光一代表幹事、林浩司副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	5月	関東	集じん装置の多機能化検討
第2回	9月	関西	JIS Z 8852 (排ガス中のダスト濃度の連続測定) 関連講演と測定機器の紹介
第3回	11月	関東	粉じん爆発委員会との合同開催を予定
第4回	H27.2月	中部	ユーザー視点の集じん機への期待 (送風機における省エネ提案)

幹事会、小委員会開催予定:

幹事会: 3~4回(随時、時期、場所 未定)

小委員会: 3回(随時、時期、場所 未定)

活動:

平成26年度体制は、小グループおよび各拠点幹事による活動を活発にし、「省エネ」をテーマとしたフィルタや集じん装置のユーザー満足度の向上ならびに、ニーズ・先端技術の提供を目的に、年4回の分科会を計画する。

7.6 混合・成形分科会

(遠藤茂寿コーディネータ、鈴木道隆副コーディネータ、藤井淳代表幹事、菅原一博副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	7月	関東	積層セラミックス基板製造装置工場見学会
第2回	9~10月	未定	セラミックス関連企業(研究機関)での見学会

幹事会・小委員会開催予定:

幹事会: 4回(7月、8月、10月、H27.3月 - 菅原精機(株)他)

活動:

- 1) 粉体混合・成形がキープロセスであるセラミックスの成形技術や製薬・製剤技術など一連の粉体プロセスにおける今日的な課題に焦点を合わせた活動(見学会、講演会)を行う。
- 2) 小委員会活動にて取り組んできた粉体混合装置の特性評価方法については、H25年度に協会規格化。今後は混練性評価方法について検討する。

7.7 造粒分科会 (村瀬和典コーディネータ、武井孝副コーディネータ、吉原伊知郎代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	9~11月	未定	施設見学会
第2回	H27.3月	伊豆高原	宿泊型技術討論会

幹事会開催予定: 4回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

小委員会開催予定: 1回(5月-未定)

活動:

年一回の「宿泊型技術討論会」、「日帰りの施設見学会」を、年間テーマにしたがって企画・運営してゆく予定。平成26年は、テーマとして「自己修復機能を持つ粒子、及び災害防止に関わる造粒技術」を検討している。また、今後とも分科会幹事のメンバー数を増強してゆく方針。

7.8 計装測定分科会 (森康維コーディネータ、藤正督副コーディネータ、鷲尾一裕代表幹事、大畑学副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	東日本	粉体関係施設の見学
第2回	9月	西日本	同上
第3回	H27.1月	東日本	計装測定講演会

幹事会開催予定:

幹事会: 3回(上記本会合に併せて開催)

活動:

分科会は、見学会2回、講演会1回の合計3回の開催を目標とする。中期テーマ「ナノ粒子計測を含む新しい粉体測定技術の探求と信頼性向上」を継承しつつ、分科会共通テーマである“ナノ粒子”に注目していきたい。

7.9 湿式プロセス分科会 (東谷公コーディネータ、後藤邦彰副コーディネータ、石川敏代表幹事、岡本泰次副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	未定	未定	ナノテク、電池関係
第2回	11月	未定	ビーズミル、食品関係

幹事会開催予定:
幹事会: 3回(6月、11月-未定)

活動:
ナノテク、電池、ビーズミル、食品関係の中から見学・講演会を企画する。

7.10 粒子加工技術分科会

(福森義信コーディネータ、竹内洋文副コーディネータ、大川原正明代表幹事、伊藤有一/長門琢也副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	大阪	見学・講演会
第2回	9月	北海道	見学・講演会
第3回	H27.2月	愛媛	見学・講演会

幹事会開催予定:
幹事会: 6月、9月、10月、2月

活動:
・粒子加工技術の関連企業での見学会及び製剤などに関する講演会・・・年3回
・製剤と粒子設計シンポジウムを粉体工学会の部会とともに共催し、協力を続ける・・・年1回
・粉体エンジニア早期養成講座開講・・・年1回

7.11 輸送分科会

(田中敏嗣コーディネータ、武居昌宏副コーディネータ、井上照男代表幹事、勝島慎二郎/岸本武志副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	九州	見学・講演(合同分科会)
第2回	10月	中部	見学・講演
第3回	H27.3月	関東	見学・講演

幹事会開催予定:
幹事会: 5回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催)

活動:
近年、世界が激動の時代に入り、産業界における世界の設備投資が低迷し、改めて現在の輸送設備の位置付けや、その技術推移を見直す必要がある。そこで、これまで輸送設備が多く導入されてきた分野の再確認と、今後新たに導入が期待される新分野の動向を確認することで、輸送設備の抱える現状の問題点抽出と今後の進むべき方向を見出していきたい。具体的な分科会活動としては、幹事会社が分科会を利用し自らの問題点を少しでも解決するための勉強会を幹事会に加える、新市場を中心として、年三回予定されている分科会の開催とそれに関わる新技術の講演を企画できるように努めていきたい。

7.12 クリーン化分科会

(大谷吉生コーディネータ、鍵直樹副コーディネータ、宇治勝幸代表幹事、渡辺幸次副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	5月	新潟	食品工場施設見学と講演会
第2回	10月	関西	薬品工場施設見学と講演会
第3回	H27.2月	未定	クリーン化シンポジウム

幹事会開催予定:
幹事会: 3回(4月-都内、5月新潟、10月-関西、12月-未定)

活動:
分科会として医薬品、食品関係の工場見学会と講演会を計画して行く。また、他学会との技術交流のため共催シンポジウムを計画したい。

7.13 環境エネルギー・流動化分科会

(堀尾正靱コーディネータ、幡野博之副コーディネータ、鈴木康夫代表幹事、高島久継副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	5月	三重	流動層設備見学会
第2回	7月	北海道	再生可能エネルギー利用技術見学会
第3回	H27.1月	東京	流動層施設見学会

幹事会開催予定:

幹事会: 3回(上記本会合に併せて開催)

活動:

流動層技術を中心に、新しいバイオマスエネルギーの利用について調査するとともに、最新の流動層技術動向の講演会も企画する。

7.14 晶析分科会

(大嶋寛コーディネータ、長谷川正巳副コーディネータ、亀井利道代表幹事、津崎裕也副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	5月	関西	粒子形態制御のニーズと課題
第2回	6月	奈良	ACTS2014
第3回	12月	未定	晶析研究会

幹事会・小委員会開催予定:

幹事会・小委員会: 5回(上記本会合に併せておよび必要に応じて開催-4,5,6,9,12月)

活動:

日中韓の晶析技術のシンポジウムが6月に日本で開催されることにあわせ、晶析分科会のセッションを運営する。9月には、ヨーロッパ EFCE の工業晶析シンポジウムが予定されているので分科会の時期について調整する。

7.15 微粒子ナノテクノロジー分科会

(神谷秀博コーディネータ、宮原稔副コーディネータ、福井武久代表幹事、関谷敏雄副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	7月	東京	ナノ物質利用合同分科会
第2回	10月	未定	第1回分科会: 微粒子ナノ技術発信
第3回	未定	未定	第2回分科会: 微粒子ナノ技術発信
第4回	1月	大阪	ナノ物質リスク情報交換会

幹事会開催予定:

幹事会: 4回(4月-大阪、6月-名古屋、9,11月-東京、H27.3月-大阪)

活動:

- ・微粒子ナノテク情報発信・啓発を目的に、単独分科会を企画開催する。
- ・ナノ物質利用面の合同分科会を企画開催すると共にリスク面での情報交換会開催を検討する。

7.16 静電気利用技術分科会

(松山達コーディネータ、大澤敦副コーディネータ、畠中伸代表幹事、乾薫副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	7月	東京	3Dプリンター
第2回	11月	埼玉	落雷/超電高圧研究センター

幹事会開催予定:

幹事会: 3回(4、6、9月-東京 協会東京事務所)

活動:

- ・粉体工学会/粒子帯電制御研究会との協力関係による会員数の増大
- ・専門講座及び分科会企画の起点となる企業との関係構築(春日電機 他)

7.17 電池製造技術分科会

(境哲男コーディネータ、堤敦司副コーディネータ、秋元祐代表幹事、桜井敏夫/佐藤高公副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	東京	未定
第2回	10月	山形	未定
第3回	H27.2	兵庫	未定

幹事会開催予定:

幹事会: 3回(上記本会合に併せて開催)

活動:

粉体最先端処理技術をベースとした最新電池製造技術について、電池ユーザーや電池メーカー、電池材料メーカー、粉体技術メーカー、産学官研究機関など、異分野の人材、情報、技術の交流の場を提供する。

7.18 リサイクル技術分科会

(大矢 仁史コーディネータ、外川健一副コーディネータ、荻田哲也代表事、蓮池達央副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	6月	福島	除染問題の現状と今後の展望
第2回	9月	北九州市	セメントを利用したリサイクル技術とスマートグリッドの現状
第3回	H27.3月	栃木	最新の廃棄物焼却処理技術と廃熱有効利用技術

幹事会開催予定:

幹事会: 4回(6、9、12月、H27.3月)

活動:

- ①福島県に乗り込み「除染問題の現状と今後の展望」に関して講演会と見学会を開催する。
- ②北九州における「スマートグリッド」を見学し、電力・熱エネルギーの有効利用を学ぶ。またセメント工場での「焼却灰利用技術」に関して見学し「持続可能社会」へのヒントを探る。
- ③栃木の(株)アクトリーの研究所において廃棄物処理により得られる廃熱の有効利用技術の開発施設の見学を実施する。また震災復興の総括講演を予定する。

7.19 食品粉体技術分科会

(羽倉義雄コーディネータ、五月女格副コーディネータ、千葉仁司代表幹事、川島哲文副代表幹事)

本会合開催予定:	時期	地区	内容
第1回	5月	群馬	食品粉体製造技術
第2回	10月	未定	未定

幹事会開催予定:

幹事会: 3回(5、10月、H27.1月 or2月)

活動:

中期活動テーマに沿って、食品工場の見学の他講演会などで新しい情報、技術を習得できる活動を行っていきたい。また、平成26年度は専門講座を開催し、単位操作技術についての「基礎」と「最新動向」など食品メーカーに有意義な場を提供していきたい、と考えている。

8. 粉体工業技術センター (大川原武センター長、豊見昭副センター長)

8.1 教育部門 (牧野尚夫マネジャー、大川原正明副マネジャー、松坂修二副マネジャー、)

委員会開催予定 :3回(5月、9月、11月 京都開催)

- 1) H27年度粉体入門セミナー 講師及びシラバスの検討
- 2) 入門セミナーよりも易しいレベルのコンテンツ検討
- 3) H26年度の開催状況と課題、H27年度の予定

小委員会開催予定:「粉体エンジニア早期養成講座実行小委員会」:1回(2月-京都開催)

活動:

H26年度 各講座開催予定

- 1) 粉体入門セミナー 3回 メルパルク京都<京都市>
- 2) 粉体エンジニア早期養成講座:昨年と同様の11講座を開催予定
- 3) 粉体技術専門講座 2回開催予定
- 4) 粉じん爆発・火災安全研修 2回開催予定
[初級] 9.18(木)-19日(金)同志社大学京田辺キャンパス<京都府>
[中級] H27年 3.12(木)-13(金)労働安全衛生総合研究所 <東京都 清瀬市>
- 5) 経営講座 1回開催予定
・後期(秋):関西で開催を予定。前期

- 6) 特別講座:
 第2回海外情報セミナー 6.6(金)株式会社日清製粉グループ本社会議室<東京都>
 第3回海外情報セミナー 11月
 その他 開催希望があれば開催する。

アドホック講座についてはホットな話題(粒子形状の制御 フィラー複合材料など)ができれば検討する
 また、H27年度に向け、粉体入門セミナーの講師選定とシラバス再構築、粉体入門セミナーよりも易しいレベルのコンテンツ検討を行う。

8.2 製造事業部門 (竹内和マネジャー)

活動:

- 1) 製造委託事業者とのコミュニケーション向上
- 2) JIS 試験用粉体 1 用の粒子径分布測定装置の更新(標準粉体委員会との連携)
- 3) 検定用粒子を Certificated Reference Material への格上げ(標準粉体委員会との連携-複数年の継続作業)

【平成 26 年度収支計画】

26年度 GDP の伸びについて、政府、日銀、民間金融機関は消費税増税の影響を考え 1.5% 前後の値を想定している。標準粉体の売上げもこれに連動するとみて、予測値のうち高めの対前年伸び 1.8% で計算した。また、事業費には現検定用粒子を **Certificated Reference Material** へ格上げするための費用 (2,000 千円) を含む。このため、「収入-事業費」の対前年伸びは、1.3% になる。

項目	平成 25 年度予算(千円) A	平成 26 年度予算(千円)	B/A(%)
製造部門収入	82,000	94,120	115
製造部門事業費	60,700	70,060	105
収支差	21,300	24,060	113

8.3 産学技術交流推進部門(後藤邦彰マネジャー、菅原一博副マネジャー)

委員会開催予定 :4 回程度。(時期未定 京都開催)

活動予定:

- 1) 技術相談:技術相談はホームページを通じて通年受付。
- 2) テクノカフェ:2~3 回/年開催、京都駅近辺、粉体技術のアプリケーションを中心としたテーマとする。
- 3) 「ベストシーズ講演会(仮称)」 APPIE 産学官連携フェア2013で面白かったシーズを3, 4件チョイスし講演⇒講演者と参加者との交流を図る。

9. 技術情報交流懇話会

9.1 火曜会: 東京にて4回開催する。

4月8日、7月8日、10月7日、H27.1月13日

9.2 水曜会: 名古屋にて3回開催する。

6月25日、11月5日、H27.2月18日

9.3 木曜会: 大阪にて4回開催する。

5月8日、9月4日、12月4日、H27.3月5日

9.4 金曜会: 福岡にて3回開催する。

7月25日、10月24日、H27.3月20日

10. 共催・協賛及び後援行事

(H26.4.1~H27.3.31 確定分)

10.1 共催

行事名	開催日	開催場所	主催団体
第10回エアロゾルシンポジウム	H26.5.30	埼玉/大宮ソニックシティ	日本エアロゾル学会

第 49 回技術討論会	H26.6.17 ～6.18	東京/東京大学	粉体工学会
第 31 回エアロゾル科学・技術研究討論会	H26.8.6 ～8.8	茨城/筑波大学	日本エアロゾル学会

10.2 協賛

行事名	開催日	開催場所	主催団体
日本エネルギー学会[リサイクル・バイオマス・ガス化]三部会 (RGB) シンポジウム-廃棄物, バイオマス, 石炭等利用技術の最新動向-	H26.5.9	東京/全国家電会館	日本エネルギー学会
第 132 回環境資源工学会例会	H26.6.5 ～6.6	大阪/関西大学	環境資源工学会
FOOMA JAPAN2014	H26.6.10 ～6.13	東京/東京ビッグサイト	日本食品機械工業会
第 1 回講演会「エネルギー削減へ導く塗装技術と周辺動向」	H26.6.27	東京/日本ペイント(株)	日本塗装技術協会
セミナー「新しい製品を生み出す粉体技術計測から機能化まで」	H26.7.10	大阪/大阪科学技術センター	化学工学会関西支部
第 12 回技術講演会	H26.7.15～ 7.16	京都/京都国際会館	新製剤技術とエンジニアリングを考える会
TECHNO-FRONTIER 2014	H26.7.23 ～7.25	東京/東京ビッグサイト	日本能率協会
IFPEX2014(第 24 回フルードパワー国際見本市)	H26.9.17 ～9.19	東京/東京ビッグサイト	日本フルードパワー工業会、フジサンケイビジネスアイ
INTERMEASURE2014	H26.9.17～ 9.19	東京/東京ビッグサイト	日本計量機器工業連合会

11. 刊行物

- 11.1 月刊「粉体技術」 A4版 約 100 ページ
編集:「粉体技術」編集委員会
発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
発行:月刊(市販 1,620 円/冊)(約 1,500 部)
- 11.2 日本粉体工業技術協会 事業案内(和文 2014/2015 年度版) A4 版 11 ページ
編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
発行:平成 26 年 5 月(400 部)
- 11.3 日本粉体工業技術協会 事業案内(英文 2014-2015Edition) A4版 6 ページ
編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
発行:平成 26 年 5 月(500 部)
- 11.4 日本粉体工業技術協会開催の各種セミナー・講習会と教育部門の講座用テキスト
編集/発行所(一社)日本粉体工業技術協会 教育部門他
発行:各 50～100 部
- 11.5 APPIE annual Report 2014 A4版 2 ページ
編集/発行所:(一社)日本粉体工業技術協会
発行:500 部
- 11.8 粉体技術総覧 2014/2015 A4版 約 300 ページ
編集/発行:一般社団法人日本粉体工業技術協会
発行:平成 26 年 11 月 (誌本 10,000 部 CD 10,000 部)